資料４

□ 改定後の将来像と基本目標

地域区分	地域の特性	地域の課題	将来像	基本目標
①嵐北地域	●南端は五十嵐川、西端は信濃川となっている ●東三条駅及び北三条駅が立地し、東三条駅においては、公共交通利用者の拠点となっている ●中央、一ノ木戸、東三条などの商店街（商業機能）のほか、市役所（行政機能）や市立図書館、歴史民俗産業資料館（文化機能）など各種都市機能が集積 ●歴史的建造物である三条別院や八幡宮･神明宮などの社寺がある ●市街地においては準工業地域が点在し、利器工匠具製造業の工場や三条鍛冶道場が立地 ●塚野目地区は一部工業地域となっているが、住宅も多い ●住宅地のほとんどは人口集中地区であり、狭隘道路が多く、袋小路も存在	●東三条駅周辺や商店街の機能向上 ●既成市街地を中心とした住家・店舗の空洞化対策 ●国道 289 号等の道路渋滞対策 ●狭隘道路の改善 ●用途地域辺縁部における宅地化の拡大抑制 ●歴史文化資源や伝統的地域産業の保護	歴史・伝統を感じながら、 便利に快適に暮らす、 にぎわいと魅力あふれるまち	①東三条駅及び北三条駅周辺のにぎわいづくり ②歴史・文化や伝統産業を守り、交流施設等を活かした地域の魅力づくり ③安全で暮らしやすく、多様なニーズに対応した、利便性の高い定住の場づくり
②嵐南地域	●地域内を新通川と島田川が流れており、北端の五十嵐川に合流している ●市道西大崎西本成寺線から北側が概ね人口集中地区となっており、南側には優良農地が広がる ●三条駅と東光寺駅を有しており、三条駅東側は商業施設の進出が進んでいる ●本成寺を中心に歴史的建造物が多数存在 ●既成市街地において利器工匠具製造業の工場など小規模な事業所が多く、住宅地と工場が混在 ●地域の中心を南北に通る JR 信越本線から西側は幹線道路が少なく、狭隘道路が多い ●東南部の丘陵地には総合運動公園が立地、西側の金子新田地区は工業系施設が集積	●既成市街地を中心とした住家・店舗の空洞化対策 ●狭隘道路の改善 ●西大崎西本成寺線の交通量の増加と沿線の商業化への適切な対応 ●歴史文化資源や伝統地域産業の保護 ●新通川・島田川の治水対策	歴史・伝統や里山景観 と調和しながら、 多様な営みと 暮らしの場となる、 にぎわいと活力あるまち	①歴史・文化や伝統産業と調和する魅力ある地域づくり ②生産環境の維持・基盤整備による活力ある産業拠点づくり ③安全で良質な居住環境と利便性の高い定住の場づくり ④地域資源を活かしたスポーツ・レクリエーションの場づくり
③井栗大崎地域	●北端は信濃川、西端の一部は五十嵐川であり、東部に広がる丘陵地からは布施谷川が北端の信濃川に向かって流れている ●東部の森林に覆われた丘陵地の他は平坦地形であり優良農地が広がる ●東西を通るＪＲ信越本線の保内駅を有しており、国道 403 号三条北道路のほか、道の駅「庭園の郷 保内」の立地など隣接する加茂市からの玄関口として、観光・交流の場としての役割を担う ●居住地は塚野目地区の用途地域とその辺縁部から東三条駅南側の用途地域にかけて広がるほかは、農村集落として分布 ●地域の北側には三条金属工業団地や保内工業団地など工業団地が点在、東三条駅の隣接地や大崎地区の国道 289 号沿線においても工場等が立地 ●植物園を有する保内公園や大崎山公園などスポーツ･レクリエーション施設が立地	●国道403号三条北道路へのアクセス道路の改善 ●工業専用地域の周辺に広がる工場立地への適切な対応 ●用途地域辺縁部における宅地化の拡大抑制 ●布施谷川の改修事業促進 ●丘陵地の土砂災害警戒区域における対策 ●狭隘道路の改善	里山景観と調和しながら、 活力ある産業と交流を育む、 暮らしやすいまち	①安全で暮らしやすい定住の場づくり ②地域資源を活かした観光交流とレクリエーションの場づくり ③生産環境の維持による活力ある産業拠点づくり
④大島地域	●信濃川と中ノ口川に挟まれた区域 ●北部は、優良農地が広がり国道８号沿線を中心に県内有数の産地となる果樹園が形成されているが、一部は工業専用地域として大島工業団地が立地 ●燕三条駅及び三条燕 IC を中心とした区域は、国道８号、国道 289 号が南北・東西に延びており、交通利便性の高い拠点を形成 ●南部の国道８号沿線では郊外型店舗が連たん ●上須頃土地区画整理事業区域には県央基幹病院や市立大学・専門学校のほか、大型商業施設の開業など医療・研究・教育・商業機能が集積 ●ミズベリング三条や総合グラウンドなどスポーツ・レクリエーション施設が立地	●都市機能集積地へのアクセス向上 ●信濃川渡河部における交通混雑の緩和 ●浸水想定区域における防災対策 ●集落地における狭隘道路の改善 ●優良農地の保全	広域的な連携の軸となる 質の高い都市機能の集積地と 田園環境が共存する、 にぎわいと交流のまち	①広域的な交通結節機能と多様な都市機能集積を活かした、にぎわいと交流の拠点づくり ②果樹産業地域の保全・活力づくり ③安全で暮らしやすく、利便性の高い定住の場づくり

地域区分	地域の特性	地域の課題	将来像	基本目標
⑤栄地域	●西端から北にかけて刈谷田川が流れ信濃川に合流している ●地域の多くは平坦な地形で優良農地が広がり、南東部は、森林に覆われた丘陵地となっている ●帯織駅を有し、駅西側には住宅団地を形成 ●北部の栄スマートIC周辺には、中央工業団地や工業流通団地が立地し、国道８号沿線においても工業機能が集積、その他に川通工業団地、東部工業団地など、工業団地の立地が多い ●中心部の栄庁舎周辺には教育施設や福祉施設等の都市的機能が集積 ●居住地は、概ね農村集落単位で全体的に分布している ●南東部の丘陵地には、しらさぎ森林公園がレクリエーション施設として立地 ●東山寺や石動(いするぎ)神社などには歴史文化資源を有する	●交通利便性の高い立地を活かしたさらなる産業の発展 ●栄庁舎周辺における行政機能の維持 ●国道８号の早期４車線化の実現 ●貝喰川の治水機能向上 ●丘陵地の土砂災害警戒区域における対策 ●集落地における狭隘道路の解消 ●優良農地の保全	暮らしと産業が調和する 自然・田園環境に抱かれた、 便利で暮らしやすいまち	①栄地域の暮らしの利便性を高める地域拠点づくり ②周辺環境に調和した産業拠点づくり ③安全で暮らしやすい生活環境づくり ④地域資源を活かしたレクリエーションの場づくり
⑥下田地域	●南部は急峻な山岳と山林であり、福島県境付近の国有林一帯は、越後三山只見国定公園及び奥早出粟守門県立自然公園に指定 ●北へ向かい五十嵐川が地域の中心を流れており、その両岸に河岸段丘を形成し、その上部は森林に覆われた丘陵地となっている ●国道289号及び五十嵐川、鹿熊川、大平川、守門川沿川を中心に農村集落地が形成され、周辺には棚田等の農地が広がる ●国道289号及び290号が交差する下田庁舎周辺は、福祉施設や商店・飲食店等が集積 ●キャンプ場などのアウトドア施設や景勝地である八木ヶ鼻、中浦ヒメサユリ森林公園など豊かな自然を活かした観光・レクリエーション施設が充実 ●国道289号八十里越の開通により福島県只見町への往来が可能となる	●下田庁舎周辺における行政機能の維持 ●景勝地や棚田等の景観の保全 ●国道289号八十里越の開通を踏まえた広域観光施策の推進 ●公共交通の利便性向上 ●土砂災害警戒区域における対策 ●冬季の克雪対策	豊かな自然景観 を守りながら、 広域的な交流と連携を図る、 いつまでも住みよいまち	①下田地域の暮らしを支える地域拠点づくり ②地域資源を活かし、景観に配慮した観光・交流の拠点づくり ③安全で暮らしやすい生活環境づくり

□ 地域別都市づくりの方針（改定案）

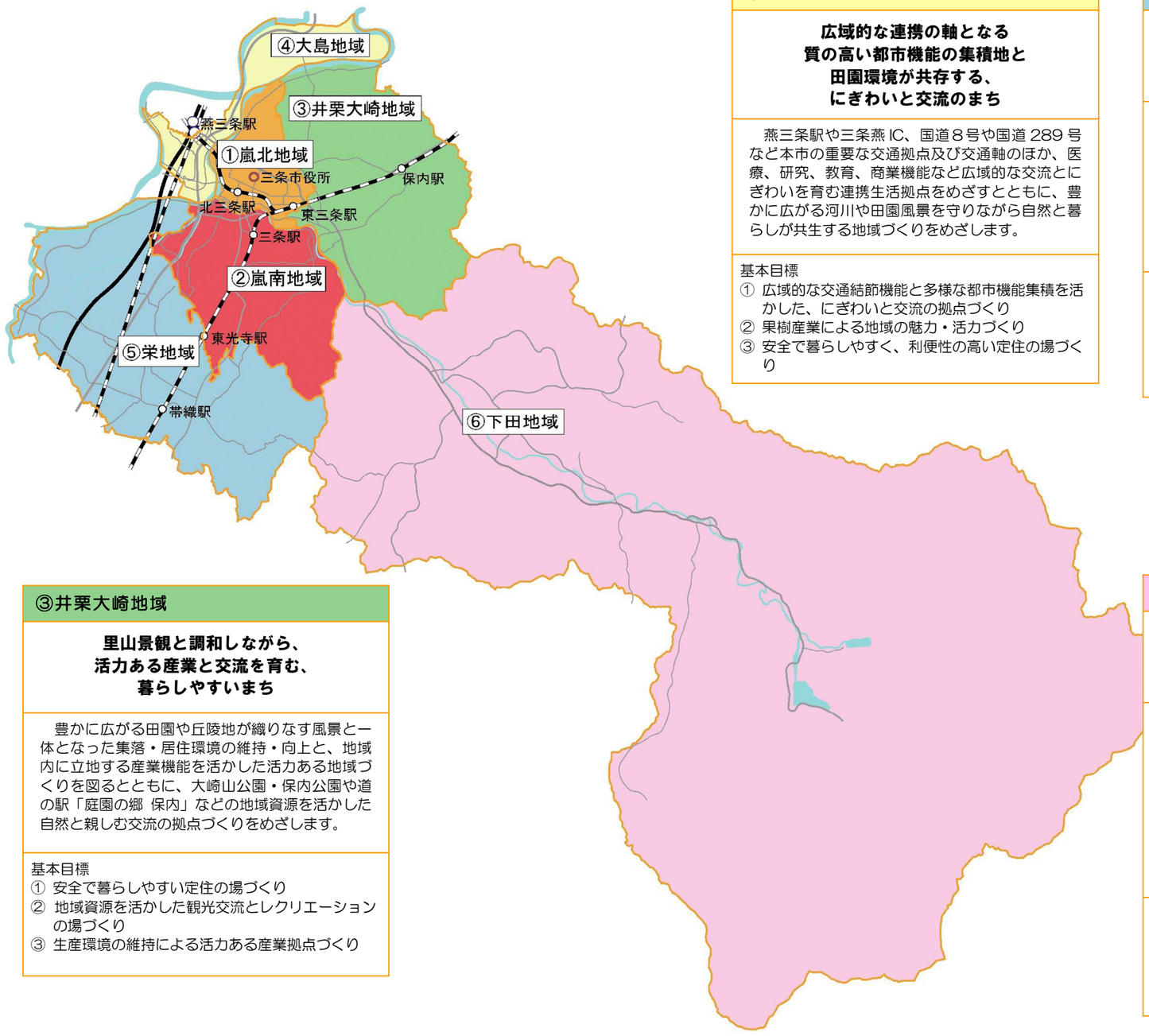
＜地域の将来像と基本目標＞

①嵐北地域

歴史・伝統を感じながら、
便利に快適に暮らす、
にぎわいと魅力あふれるまち

北三条駅周辺における歴史・文化資源や、東三条駅及び北三条駅周辺における伝統的産業の継承と、交流施設のさらなる利活用を促進しながら、本市の中心市街地地区にふさわしい、にぎわいと魅力を創出するとともに、行政サービス機能や商業業務機能など多様な都市機能が集積する地域の特性を活かした、便利で快適にかつ安心して暮らし続けられる地域づくりをめざします。

基本目標
① 東三条駅及び北三条駅周辺のにぎわいづくり
② 歴史・文化や伝統産業を守り、交流施設等を活かした地域の魅力づくり
③ 安全で暮らしやすく、多様なニーズに対応した、利便性の高い定住の場づくり



②嵐南地域

歴史・伝統や里山景観と調和しながら、
多様な営みと暮らしの場となる、
にぎわいと活力あるまち

豊かに広がる田園や丘陵地と集落が形づくる里山景観及び本成寺などの歴史的建造物の風情ある街並み、利器工匠製造工場等と住宅が共存する界隈性を大切にしながら、地域内の産業機能の維持・向上による、にぎわいと活力の再生・創出を図り、地域の有する自然・歴史・産業環境と共存する安全で良質な居住環境を有する地域づくりをめざします。

基本目標
① 歴史・文化や伝統産業と調和する魅力ある地域づくり
② 生産環境の維持・基盤整備による活力ある産業拠点づくり
③ 安全で良質な居住環境と利便性の高い定住の場づくり
④ 地域資源を活かしたスポーツ・レクリエーションの場づくり

③井栗大崎地域

里山景観と調和しながら、
活力ある産業と交流を育む、
暮らしやすいまち

豊かに広がる田園や丘陵地が織りなす風景と一体となった集落・居住環境の維持・向上と、地域内に立地する産業機能を活かした活力ある地域づくりを図るとともに、大崎山公園・保内公園や道の駅「庭園の郷 保内」などの地域資源を活かした自然と親しむ交流の拠点づくりをめざします。

基本目標
① 安全で暮らしやすい定住の場づくり
② 地域資源を活かした観光交流とレクリエーションの場づくり
③ 生産環境の維持による活力ある産業拠点づくり

④大島地域

広域的な連携の軸となる
質の高い都市機能の集積地と
田園環境が共存する、
にぎわいと交流のまち

燕三条駅や三条燕 IC、国道８号や国道 289 号など本市の重要な交通拠点及び交通軸のほか、医療、研究、教育、商業機能など広域的な交流とにぎわいを育む連携生活拠点をめざすとともに、豊かに広がる河川や田園風景を守りながら自然と暮らしが共生する地域づくりをめざします。

基本目標
① 広域的な交通結節機能と多様な都市機能集積を活かした、にぎわいと交流の拠点づくり
② 果樹産業による地域の魅力・活力づくり
③ 安全で暮らしやすく、利便性の高い定住の場づくり

⑤栄地域

暮らしと産業が調和する、
自然・田園環境に抱かれた、
便利で暮らしやすいまち

豊かに広がる田園や河川、丘陵地などの自然環境及び石動神社などの歴史資源を大切にしながら、地域拠点である市役所栄庁舎周辺を中心に、教育機能、福祉機能の集積による利便性の高い地域環境の維持を図るとともに、既存産業拠点の維持と栄スマート IC の立地を活かした産業機能の強化などにより、活力があり便利で暮らしやすい地域づくりをめざします。

基本目標
① 栄地域の暮らしの利便性を高める地域拠点づくり
② 周辺環境に調和した産業拠点づくり
③ 安全で暮らしやすい生活環境づくり
④ 地域資源を活かしたレクリエーションの場づくり

⑥下田地域

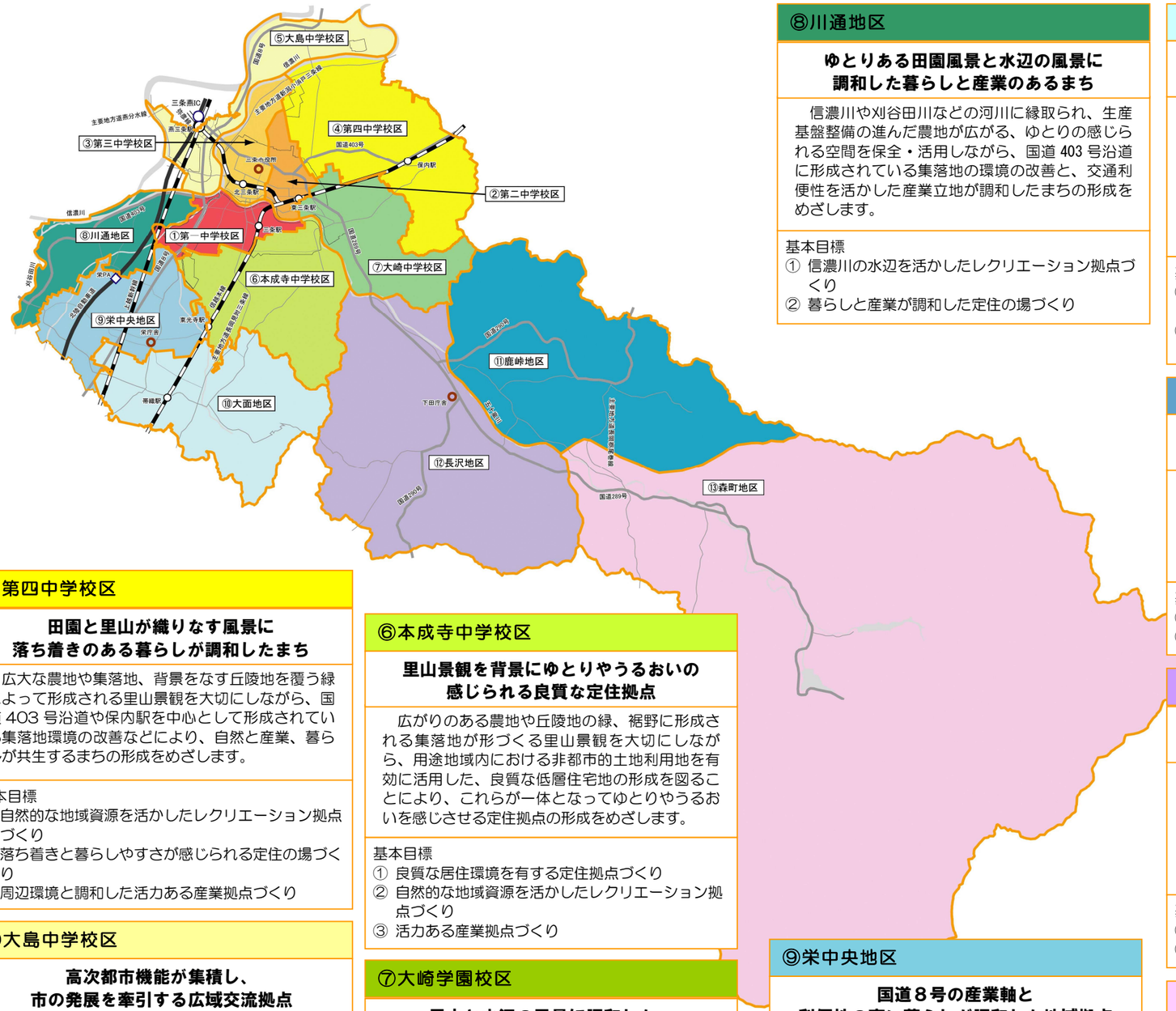
豊かな自然景観を守りながら、
広域的な交流と連携を図る、
いつまでも住みよいまち

緑濃き森林とヒメサユリに代表される自然環境を大切に守りながら、地域拠点である市役所下田庁舎周辺を中心に集積する行政機能等の維持を図り、いつまでも住みよいと感じられる地域づくりとともに、国道 289 号八十里越街道の開通を見据えながら、五十嵐川や八木ヶ鼻温泉、アウトドア施設など、地域の有する自然、交流・観光資源を活かし、多くの人々が訪れてみたいと思える個性と魅力ある地域づくりをめざします。

基本目標
① 下田地域の暮らしを支える地域拠点づくり
② 地域資源を活かし、景観に配慮した観光・交流の拠点づくり
③ 安全で暮らしやすい生活環境づくり

□ 地区別都市づくりの方針（現行計画）

＜地区の将来像と基本目標＞



①第一中学校区

歴史と伝統が息づく、
落ち着きと利便性が調和した定住のまち

本成寺などの歴史的建造物や風情のある街並み、利器工匠具製造工場等と住宅が共存する界隈性を大切にしながら、既存商店街を中心とした商業機能や居住機能の活性化により、落ち着きややすらぎが感じられながらも、利便性の高いまちの形成をめざします。

基本目標
① 三条駅周辺におけるにぎわいと交流の拠点づくり
② 良質な居住環境と利便性を兼ね備えた定住の場づくり
③ 歴史文化の風情が感じられる街並みづくり
④ 伝統技術を継承する市街地環境づくり

②第二中学校区

交通の拠点性を活かしたにぎわいと
便利で落ち着きが感じられる暮らしのあるまち

交通拠点である東三条駅が有する交通結節機能や、東西及び南北の軸となる国道 289 号及びバイパス、国道 403 号及びバイパスによる自動車交通の利便性を活かしながら、既存商店街を中心とした商業機能や居住機能の活性化により、にぎわいと落ち着きが共存するまちの形成をめざしま

基本目標
① 東三条駅の交通結節機能を活かした、にぎわいある拠点づくり
② 周辺環境と調和した産業拠点づくり
③ にぎわいと落ち着きが共存する定住の場づくり

③第三中学校区

歴史・伝統を感じる風情と
高次都市機能が共存するシンボル拠点

東別院や良寛の道、三条鍛冶道場や利器工匠具製造工場など、歴史や伝統文化を語る地域資源と、市役所をはじめとする行政サービス・文化機能、商業・業務機能など、高度に集積する各種機能を活かしながら、古いものと新しいものが調和し、共存する、三条市のシンボルとなる拠点の形成をめざします。

基本目標
① 市役所周辺におけるシビックコアづくり
② 北三条駅周辺を中心としたにぎわいの拠点づくり
③ 歴史文化の風情が感じられる街並みづくり
④ 伝統技術を継承する市街地環境づくり
⑤ 多様なニーズに対応できる居住環境づくり

④第四中学校区

田園と里山が織りなす風景に
落ち着きのある暮らしが調和したまち

広大な農地や集落地、背景をなす丘陵地を覆う緑によって形成される里山景観を大切にしながら、国道 403 号沿道や保内駅を中心として形成されている集落地環境の改善などにより、自然と産業、暮らしが共生するまちの形成をめざします。

基本目標
① 自然的な地域資源を活かしたレクリエーション拠点づくり
② 落ち着きと暮らしやすさが感じられる定住の場づくり
③ 周辺環境と調和した活力ある産業拠点づくり

⑤大島中学校区

高次都市機能が集積し、
市の発展を牽引する広域交流拠点

燕三条駅や三条燕インターチェンジ、国道８号や国道 289 号などの南北・東西方向の主軸などが配置された広域的な交通結節機能、土地区画整理事業によって整備された都市基盤施設などを活かし、三条・燕地域メッセピアをはじめとする諸機能に加えて広域交流機能を中心とした機能の集積を進めることにより、市の持続的な発展を牽引する広域交流拠点の形成をめざします。

基本目標
① 広域的な交通結節機能を活かした広域交流拠点づくり
② 活力のある産業の軸づくり
③ 周辺の自然と共生する定住の場づくり

⑥本成寺中学校区

里山景観を背景にゆとりやうるおいの
感じられる良質な定住拠点

広がりのある農地や丘陵地の緑、裾野に形成される集落地が形づくる里山景観を大切にしながら、用途地域内における非都市的土地利用を有効に活用した、良質な低層住宅地の形成を図ることにより、これらが一体となってゆとりやうるおいを感じさせる定住拠点の形成をめざします。

基本目標
① 良質な居住環境を有する定住拠点づくり
② 自然的な地域資源を活かしたレクリエーション拠点づくり
③ 活力ある産業拠点づくり

⑦大崎学園校区

里山と水辺の風景に調和した、
やすらぎと暮らしやすさの感じられるまち

五十嵐川の水辺の風景と広大な農地や集落地、背景をなす丘陵地を覆う緑によって形成される里山景観を大切にしながら、良好な住宅地・集落地の形成により、やすらぎと暮らしやすさが感じられる、自然と暮らしが共生するまちの形成をめざします。

基本目標
① 自然的な地域資源を活かしたレクリエーション拠点づくり
② やすらぎと暮らしやすさが感じられる定住の場づくり

⑧川通地区

ゆとりある田園風景と水辺の風景に
調和した暮らしと産業のあるまち

信濃川や刈谷田川などの河川に縁取られ、生産基盤整備の進んだ農地が広がる、ゆとりの感じられる空間を保全・活用しながら、国道 403 号沿道に形成されている集落地の環境の改善と、交通利便性を活かした産業立地が調和したまちの形成をめざします。

基本目標
① 信濃川の水辺を活かしたレクリエーション拠点づくり
② 暮らしと産業が調和した定住の場づくり

⑨栄中央地区

国道８号の産業軸と
利便性の高い暮らしが調和した地域拠点

国土交通軸である国道８号の沿道を中心として進む、産業機能の集積を一層進めながら、栄庁舎を中心に集積する行政サービス、商業等の各種機能の活用・充実や、生活環境の改善、災害からの安全性の向上、中心市街地や下田地域、周辺都市への交通アクセスの確保などにより、栄地域の拠点として利便性の高い暮らしを支えるまちの形成をめざします。

基本目標
① 栄地域の暮らしの利便性を高める拠点づくり
② 周辺環境に調和した産業拠点づくり
③ 暮らしやすさが感じられる定住の場づくり

⑩大面地区

里山景観や歴史的資源を基盤とした
落ち着きと暮らしやすさの感じられるまち

田園と集落、背景となる緑が一体となった里山や、東山寺、石動神社などの歴史的な地域資源が醸し出す良好な景観を大切にしながら、帯織駅を中心とした居住機能の維持・改善や県道分水栄線等の沿道に集積する工業機能などが調和した、落ち着きと暮らしやすさが感じられるまちの形成をめざします。

基本目標
① 自然・歴史的な地域資源を活かしたレクリエーション拠点づくり
② 落ち着きと暮らしやすさが感じられる定住の場づくり

⑪鹿峠地区

豊かな自然に包まれた落ち着きと
やすらぎが感じられる暮らしのあるまち

緑濃き森林とヒメサユリに代表される自然環境を守りながら、生活環境の改善や災害からの安全性、五十嵐川対岸の長沢・森町地区との連絡性の向上などにより、暮らしの場としての落ち着きとやすらぎが感じられるまちの形成をめざします。

基本目標
① 豊かな自然環境を活かした産業づくり
② いつまでも住みよいと感じられる暮らしの場づくり

⑫長沢地区

豊かな自然環境と調和しつつ、
利便性の高い暮らしを支える地域拠点

下田庁舎を中心に集積する行政サービス、商業、工業等の各種機能の活用と、その拡充を進めながら、生活環境の改善や災害からの安全性の向上、中心市街地や周辺都市への交通アクセスの確保などにより、下田地域の拠点として利便性の高い暮らしを支えるまちの形成をめざします。

基本目標
① 下田地域の暮らしを支える拠点づくり
② いつまでも住みよいと感じられる暮らしの場づくり

⑬森町地区

豊かな自然に包まれた暮らしと多くの
人が訪れる観光交流機能が調和したまち

八木ヶ鼻に代表される豊かな自然に魅力を感じ、多くの人々が「訪れてみたい」と思える観光交流機能の充実を図るとともに、生活環境の改善や安全性、利便性の向上などにより、「いつまでも住み続けたい」という思いに応えることのできる、暮らしの場の形成をめざします。

基本目標
① 豊かな自然環境を活かした観光交流の拠点づくり下田地域の暮らしを支える拠点づくり
② いつまでも住みよいと感じられる暮らしの場づくり